

令和6年度 岩手県普及活動年報

「普及活動の成果」抜粋

地域内外と連携を強化した「面」的な畜産普及指導活動の取組

【中部農業改良普及センター】

■ 課題名

IV 畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進

■ ねらい

当地域の畜産農家は、肉用牛、酪農ともに中小規模農家が多く、昨今の資材・飼料価格の高騰や高齢化による離農等で飼養戸数・頭数の減少が続いている。

そのような中、普及センターでは課題解決に向けた個別経営体の支援を主体として活動してきたが、厳しい畜産情勢の中で当地域が産地として維持・発展していくためには、地域全体の技術力の向上及び限られた人材での支援体制の強化が必要である。

このため、点から面への支援活動の展開、地域の枠を越えた技術・情報の共有等、効率的かつ効果的な普及指導活動手法の検討・試行を行った。

■ 活動対象

肉用牛農家、酪農家

■ 活動経過

(1) 地域全体の技術向上を目的とした普及活動の展開

ア 個別巡回支援の実施

地域の畜産関係者で構成される花北地域畜産サポートチーム（JAいわて花巻、花巻市、北上市、花巻農林振興センター、普及センター）の活動を通じて、普及センターでは、将来地域を担う中核的経営体の育成支援を提案し個別巡回支援を行うとともに、技術情報誌の発行により技術力の向上を図ってきた。

こうした活動により、繁殖成績の改善等において一定の成果が見られたものの、地域全体の生産性の向上に向けては、個別巡回だけでは限界があった。また、情報誌は配布のみで活用状況が把握できていなかったことから、個別巡回で得られた知見の発信や情報誌の有効活用により地域全体の飼養管理技術の向上を促した。



写真1：花北地域での指導会の実施

イ 地域への新たな展開（飼養管理指導会の開催）

令和6年度から、取組の効率的な横展開と若手職員の資質向上を目的に、県南広域4地域で連携し活動手法を共有する取組（県南広域畜産技術養成ゼミ）を実施している。そこで、他地域で行われている和牛管理指導会の取組を参考に、当地域初となる飼養管理指導会を開催した。多くの農家が集まる和牛登録審査に併せて指導会を行うことで、個別巡回対象以外の農家にも広く情報伝達や指導が可能となり、活動の幅が広がった。

(2) 地域環境を考慮した自給飼料増産の取組

ア 新草種（パールミレット）の栽培実証

昨今、飼料価格の高騰により自給飼料の増産が重要となっていることや、夏期高温により寒地型牧草の夏枯れ被害が深刻となっていた。このため、気候変動に対応した新たな栽培体系の構築を目指し、幅広い圃場条件に適応し多収が見込まれる夏作飼料作物「パールミレット」の栽培実証を行った。

草丈が2 m程度となる大型の飼料作物「パールミレット」は、当地域において初の栽培となる。このため、その収量性をわかりやすく伝え、併せて普及拡大の可能性を検討する上で実際に栽培時の様子を見せることが最も効率的と考え、花巻農林振興センターと連携して現地見学会を開催した。



写真2：パールミレット現地見学会

イ 飼料用トウモロコシの増産に向けた指導

西和賀地域で生産されている飼料用トウモロコシは、圃場条件や作業の遅れなどにより低収であった。このため、種苗会社と連携し土壌診断を実施して次年度に作付けする圃場の選定を行うとともに、農家と作業スケジュールの確認を綿密に行い、肥培管理、雑草防除、適期作業など圃場管理の徹底を指導した。

(3) 担当者会議での情報共有

(1)及び(2)の取組は、花北地域畜産サポートチームの担当者打合せで毎月報告を行い支援対象農家の現状や栽培実証の進捗について関係機関と共有した。打合せは地域課題を抽出する場でもあり、課題解決に向けた取組や施策について活発な検討が行われた。

■ 活動成果

- (1) 飼養管理指導会は初の取組だったが、参加した農家は興味深そうに話を聞いており、幅広い農家に対し指導活動が可能であると感じた。前述のゼミ内で既に指導会を実施している地域においても効率的な指導活動により農家の意識改革が進んでいることから、当地域においても指導会を継続し地域全体の飼養管理技術の平準化を図っていく。
- (2) 「パールミレット」について、参加者からは収量性の高さを評価する一方、牛の嗜好性や収穫のタイミング等の課題が挙げられた。飼料用トウモロコシは圃場管理の徹底により収量が前年比38%増となり、その重要性が認識された。また、ゼミ内において他地域の栽培状況について情報提供があり、今後普及拡大を検討する上での有益な知見が得られた。
- (3) 関係機関・団体との打合せにおいて、自給飼料生産基盤の強化が急務という認識が共有され、農家ニーズを反映した草地更新に係る市単補助事業が創設されるなど施策展開に繋がった。関係機関・団体が連携して地域課題の解決に向けた推進体制が構築されていることから、今後はさらに連携を強化し産地の活性化に向け支援を継続する。



子牛市場価格の長引く低迷のほか、生産資材や輸入飼料価格の高騰により、畜産農家にとって厳しい状況が続いております。

生産コスト低減のためには、牧草の新品種への転換等の取組み等、自給飼料の増産が重要な役割を果たします。また地域全体の技術の向上や課題解決に向けた指導及び情報提供など、今後ともよろしくお願いいたします。

所属職名：JAいわて花巻 営農部畜産センター指導販売係 考查役 氏名：菅野健文

■ 協働した機関

JAいわて花巻、花巻市、北上市、花巻農林振興センター、中部農業改良普及センター遠野サブセンター

■ 中部農業改良普及センター

経営指導課（課員：羽田雅紀、神山沙季、三合堂和美）

執筆者：羽田雅紀

畑作物の安定生産に向けた取組

【中部農業改良普及センター】

■ 課題名

Ⅱ 競争力の高い米産地の育成 2 水田フル活用の推進 (1) 畑作物の安定生産

■ ねらい

管内の小麦・大豆の大半は水田転換畑で生産されており、水田活用交付金を活用した小麦・大豆生産は、作物生産を基幹とする経営体において重要な収入源として位置づけられている。

しかし、管内は岩手県が設定する目標単収よりも低い傾向にあり、単収向上に向けた取組が重要であることから、これを支援した。

また、北上市内のライスセンターで乾燥調製された令和4年産「ナンブコムギ」において、基準値を超えるかび毒（デオキシニバレノール，DON）が検出されたことから、再発防止に向けた関係機関・生産者の取組を指導、支援した。

■ 活動対象

管内の小麦・大豆生産者、花巻農業協同組合

■ 活動経過

(1) 小麦の安定生産に向けた取組

ア 小麦の生育ステージ予測・確認巡回

赤かび発生の防止には、適期の2回以上防除及び適期収穫に向けた指導を強化する必要がある。このことから、JAと共同で毎年実施している各地域の小麦の生育状況・ステージ把握を目的とした生育ステージ調査の地点数を従来の3地点から37地点に増やし、生育ステージの確認巡回を実施した。（図1，2）確認巡回では、幼穂長の測定とこれに基づく出穂開花期予測（4～5月）、出穂・開花状況確認（5月）、登熟状況確認（6～7月）を行った。

イ 適期防除・収穫の徹底指導

JAと連携して、調査した幼穂長に基づき直ちに地点別の出穂・開花期の予測を行い、指導会（4回、18会場）や目揃い会（9会場）等による現地指導やLINEを活用した情報発信を通じてタイムリーに生産者に周知するとともに、小麦の生育状況の捉え方の統一を図り、適期防除の徹底を促した。また、刈取り前指導会では生産者が持ち寄った子実サンプルを用いて穀粒水分の実測を行い、生産者に登熟状況の理解を促した。

(2) 大豆の安定生産に向けた取組

管内の大豆栽培において単収や作業効率の高い2経営体の各作業を動画で撮影し、記録した。（図3）

また、県南広域振興局管内の大豆栽培に取り組む集落営農法人等を対象とした県南地域大豆栽培研修会を開催し、事例紹介として、撮影編集した作業動画を交え、2経営体を講師に、各作業工程のポイントや注意点について解説していただいた。

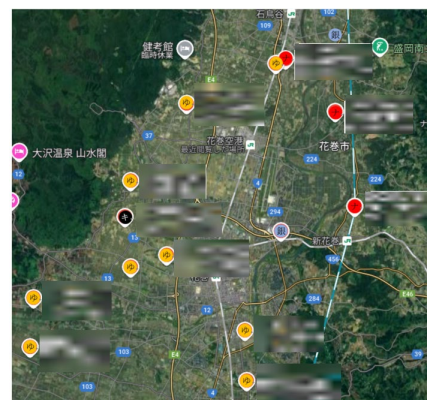


図1 小麦定点調査地点図



図2 JA職員と共に小麦生育ステージを調査



図3 大豆播種の様子(A法人)

■ 活動成果

(1) 小麦の安定生産に向けた取組

ア 適期作業の実践によるDON基準値超過件数ゼロ・意識の醸成

指導会や目揃い会を通じて、生産者毎の小麦の生育状況や登熟状況の捉え方を統一したことで、管内の適期防除・適期収穫の実施率は100%となった。この結果、管内で栽培された令和6年産小麦におけるDON基準値超過件数はゼロとなり、健全麦の生産に向けた産地全体の意識醸成が図られた。

イ 目標単収の達成

生育ステージに合わせた適期管理（防除・追肥・収穫等）が徹底されたことにより、支援対象10経営体の平均単収は238kg/10aと、普及指導計画目標(238kg/10a)を達成した。

(2) 大豆の安定生産に向けた取組

ア 優良栽培事例の収集

大豆栽培における優良経営体2経営体の各作業工程を動画で撮影し、作業を見える化した他、それぞれの作付け体系を把握し、各作業工程で注意しているポイント等を取りまとめた。(図4)

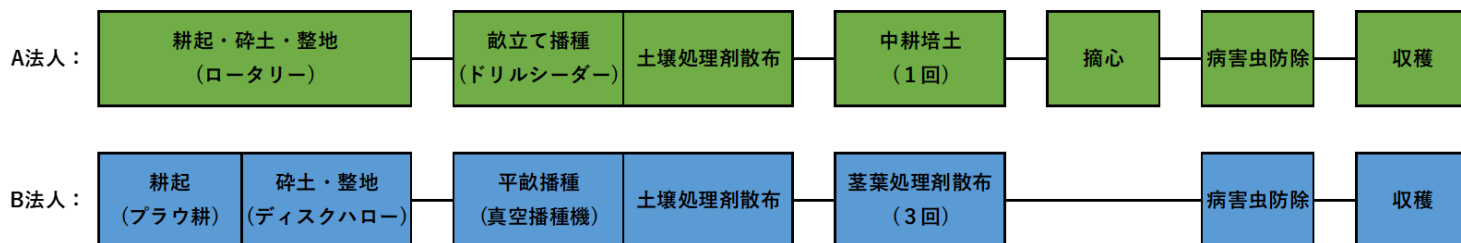


図4 優良経営体の作付け体系

イ 大豆栽培ポイントの理解促進・情報交換の活発化

現地会場・オンライン会場併せて、関係機関・団体を含め約150名が参加した。(図5)参加者からは多くの質問が寄せられ、作業機械の調整のコツや、施肥・除草体系の作業等について活発な情報交換が行われた。

また、「作業のポイントが具体的に聞けた」「いろいろな考え方があって勉強になった」等の感想が寄せられ、本研修会を通じて大豆栽培への理解が深まった。



図5 大豆栽培研修会の様子



小麦については赤かび病再発防止の一環として普及センター、農林振興センターと連携して実施した生育ステージの確認巡回や、栽培指導会等での栽培指導、また生産者の方々のご尽力のおかげで、安全・安心な麦の生産をおこなうことが出来ました。

大豆では当管内は単収が低い傾向にあった為、栽培指導会や研修会を開催するなど、意識向上、理解促進に努めていただきました。

今後も関係機関、JA、生産者で協力し、安定生産を図って参ります。

花巻農業協同組合営農部米穀販売課指導販売係（令和7年2月時点） 阿部 駿

■ 協働した機関

花巻農業協同組合、花巻農林振興センター、農業普及技術課革新支援担当

■ 中部農業改良普及センター

経営指導課（課員：佐藤拓也、根子善照）

産地育成課（課員：川村一成、課長：小田中浩哉）

地域指導課（課員：南川彩）

執筆者：川村一成

円滑な就農相談対応に向けた提供情報等の検討

【中部農業改良普及センター】

■ 課題名

I 産地をけん引する企業的経営体の育成－②新規就農者の確保・育成

■ ねらい

北上地方農林業振興協議会（北上市、西和賀町で構成。以下、「協議会」という。）管内の新規就農相談件数は増加傾向にあるが、さらなる新規就農者の確保に向け、令和6年度は、協議会として初めて県外就農相談会に出展することとなった。

しかし、協議会では、県外就農相談会に初めて出展するため、会場設営や運営に関するノウハウが不足していた。また、相談対応については、県外就農相談会では15分程度での対応が求められるが、協議会が地元で行う新規就農相談会では、概ね30分から1時間程度を要しており、短時間で対応するための資料等も整えられていなかった。

このことから、協議会の協力を得ながら、県外就農相談会でのブース運営や、限られた時間の中で効果的に相談対応するために必要な情報を検討することとした。

■ 活動対象

新規就農相談者、就農相談対応者（協議会の市町農政担当課職員）

■ 活動経過

（1）協議会の新規就農相談対応資料の確認（令和6年4月）

協議会では、国の新規就農者育成総合対策（就農準備資金・経営開始資金等）や、就農後に活用できる協議会構成員の市町単独事業等の支援策のほか、移住・定住により新規就農した事例をコンテンツの一部としてホームページで閲覧できるようにしているが、紙・電子媒体ともに、就農までの流れがわかるコンテンツが不足していることを確認した。

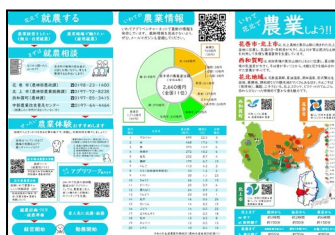
（2）上記（1）を踏まえた共通資料案の作成（令和6年6月～7月）

協議会担当者から整備が必要と考える情報を聞き取ったところ、①相談から就農・定着までの一連の流れ、②近年増加している雇用就農、③協議会構成員の市町ホームページで情報を発信していることの周知、が必要であると判断し、それらを盛り込んだ資料案を作成した。

（3）上記（2）を用いた県内外就農相談会での就農相談対応の試行等（令和6年8月）

新農業人フェアinいわて（8/25・盛岡市）、新・農業人フェア（8/31・東京都）において、資料案を用いた就農相談対応を試行した。

また、限られたスペースでのブースの装飾方法については、当日使用する資料やポスター等を事前に持ち寄り、視覚に訴えることができるよう、ラック等を用いて資料を縦置きすること等に配慮しながら、具体的なレイアウトを提案した。



資料案（3つ折りで使用）

ブースのレイアウト案（左）と実際に設営したブース（右）

(4) 資料案に対する相談者・対応者の評価

(ア) 相談対応者（協議会担当者）

- ・ 必要な情報が流れに沿って整理されており、最初の相談対応に使用しやすい。
- ・ 3つ折り、限られたスペースでの展示や持ち運びに適したサイズ感である。

(イ) 就農相談者

- ・ 岩手県までの距離感や地域の概要がわかり、移住や就農を具体的に考えるきっかけとなる。
- ・ 資料内にQRコードが多数貼り付けしてあるので、この資料があれば、後から調べたり、相談先に困ったりすることがなくて助かる。

(5) 共通資料の完成（令和7年2月）

資料案については、相談者・対応者から一定の評価を得たことから、協議会として就農相談対応時の資料に使用することを決定した。

■ 活動成果

(1) 就農相談会におけるブース運営方法のノウハウ蓄積

相談者に資料を提示し、相談者がメモを取るスペースを確保するとともに、他出展者との違いをPRできるようブースを装飾することを実践できたことで、今後のノウハウ蓄積のきっかけとなった。

(2) 就農相談対応資料の決定と活用

相談者からは、就農のきっかけとなる資料であったこと、就農相談対応者（協議会担当者）からは、本資料を用いたことで限られた時間の中で安心して対応できたことなど、一定の評価を得たことから、協議会を広くPRすることも兼ねて、雇用就農の相談が多いジョブカフェいわて等にも配架した。

(3) 今後の取組について

協議会構成員のうち、北上市では、本資料を基に市独自の資料作成を始める動きも出ていることから、その取組を支援する。また、Web相談にも対応できるよう、コンテンツの見直しや拡充につなげていきたい。



事前に「全国就農相談会はPRの場でもあり、相談者を待つのではなく、呼び込むことが必要」とのアドバイスいただいたことで、タイムパフォーマンスを意識して臨むことができ、相談者数の目標を達成できました。また、ブース装飾や相談対応の流れを事前に決めたことで、相談対応に集中できました。次の相談会も安心して出展できると感じています。さらに、事後のオンライン就農相談でも資料を使用し、円滑に対応できました。

所属職名：北上市農林部農業振興課園芸畜産係

氏名：伊藤 美奈海氏

■ 協働した機関

北上地方農林業振興協議会（花巻農業協同組合、北上市（農林部農業振興課）、西和賀町（農業振興課）、花巻農林振興センター）

■ 中部農業改良普及センター

地域指導課（課員：藤原千穂、畠山耕一、田村七海、南川彩）

執筆者：畠山耕一

トルコギキョウの安定生産に向けた取組

【中部農業改良普及センター 遠野普及サブセンター】

■ 課題名

Ⅲ 園芸産地の生産構造の強化ー 2 花き産地の生産構造の強化
(3) トルコギキョウの安定生産

■ ねらい

遠野地域の花き主要品目であるトルコギキョウの安定生産を図るため、関係機関一体となった生産支援を行い産地の維持を図る。

■ 活動対象

JAいわて花巻遠野地域野菜生産部会花き専門部（以下、遠野花き専門部）

■ 活動経過

(1) 推進方向の設定、推進体制の維持

遠野花き専門部産地改革実践プランの作成を支援し、産地が目指す方向性や目標を定めた。

また、JA、市、農林振興センター及び普及センターの園芸担当で編成した園芸推進のためのサポートチーム（チーム園芸遠野）の活動を通して、トルコギキョウの生産振興を支援した。市は生産に係る補助事業の設定、JAは技術指導及び出荷指導、普及センターは農林振興センターとともに技術指導及びサポートチーム活動をコーディネートし、定期的な会議開催により、情報共有や対応の検討などを行った。

(2) 安定生産支援

ア 農の匠と連携した集合指導会および相互巡回

集合指導会と併せてほ場相互巡回や全戸巡回を行い、JA担当者やベテラン農家の「農の匠」2名とともに、現地の生育や病害虫、高温などに対応した管理を促した。

イ 篤農家の水・温度・光環境のモニタリング

篤農家の栽培ハウスでモニタリングを行い、取得したデータと管理との関連や特徴的な傾向などについて検討した。



写真1 相互巡回で芽整理の指導

(3) 市場評価向上とブランド力強化

ア 市場挨拶会、展示会開催支援

東京都大田市場での小売店等に向けた挨拶会及び市場通路での遠野産トルコギキョウ展示会の開催を支援した。

イ 新品種等の導入支援

花の大きさや色などの消費者ニーズのほか、病害虫、生理障害、高温による前進開花や短茎開花に対応した品種を選定・導入するため、新品種の栽培実証を行い、品種説明会の開催を支援した。



写真2 市場挨拶会(撮影:JA 花巻)

■ 活動成果

(1) 安定生産支援

相互巡回では農の匠が、栽培年数の浅い生産者へのアドバイスや、ほ場を見せるだけでなく芽かきなどの実演も行うことにより、技術の平準化が進みつつある。モニタリングでは、篤農家の栽培期間全体のデータの蓄積ができたほか、水分増減の傾向や変動幅、夏場の高温対策として遮光を行った際の光と温度の変化などについて情報が得られた。

また、環境モニタリングを行った農家の評価は「スマートフォンで即時にハウス内の気温等が分かるため便利」と好評であった。農家との検討では、新規栽培者のモニタリングや夏場の地温の低下試験についてアイデアが出され、活発な検討が行われた。

(2) 高温による前進開花の課題認識の広がり

令和5年度は、10月出荷を想定して6月に苗を定植したハウスが、夏場の高温・強日照の影響を受け軒並み9月までに前進開花し、出荷本数減少の要因となった。今年度は、前進開花の課題認識が農家や関係機関に広がり、品種選定や定植時期を遅らせる取組が2戸の農家で行われた結果、10月下旬まで出荷することができた。出荷本数は前年比104%に改善し、産地改革実践プランの目標単収6,100本の達成につながった。

しかし、上記の取組は始まったばかりであり、秋の低温による不開花・出荷不能などのリスクも伴うことから、情報収集や共有を継続していく必要がある。

(3) 市場評価向上とブランド力強化

遠野地域のトルコギキョウは、30年以上の長期にわたり東京市場に継続出荷してきた経緯がある。市場挨拶会や展示会の開催により、今年度は県内のトルコギキョウ平均単価（172円/本）より60円ほど高い単価となった。また、県外から「遠野のトルコギキョウはなぜ高単価なのか」についての視察もあり、そうした対応を通じて、生産者はこれまで築いてきた市場との信頼関係とその重要性を再認識していた。

新品種実証を行った5品種のうち、次年度は実証農家が2品種程度を導入し栽培する予定であり、秋の品種検討会と併せて農家の品種選定の重要な判断材料となっている。



今年度は久しぶりに新規栽培者が仲間入りし、指導会や全戸巡回が技術向上や他の農家との情報交換がスムーズに行われるきっかけとなった。モニタリングではデータが見られない期間もあったが、スマートフォンで随時ハウス内の状態を確認でき、かん水の調節などの対応に役立った。

東京市場での挨拶会や展示会は産地単独で行っているところは少なく、遠野のトルコギキョウの良さを伝える重要な機会のため、関係機関と連携して今後も取り組んでいきたい。

所属職名：JAいわて花巻遠野地域野菜生産部会花き専門部	専門部長	氏名：駒込欣也
-----------------------------	------	---------

■ 協働した機関

花巻農業協同組合遠野地域営農グループ園芸課、遠野市産業部畜産園芸課、遠野農林振興センター農業振興課

■ 中部農業改良普及センター遠野普及サブセンター

園芸畜産チーム（チームリーダー：佐藤成利、チーム員：安部宏美、峠館大介）

執筆者：安部宏美

新規格導入と需要期安定出荷で実需ニーズに応えるために

【中部農業改良普及センター 西和賀普及サブセンター】

■ 課題名

Ⅲ 園芸産地の生産構造の強化－②花き産地の生産構造の強化 1 りんどうの安定生産

■ ねらい

西和賀地域では、地域の気候に適したオリジナルりんどう品種の開発により需要期の安定出荷に努めてきた。しかし、近年、夏が高温で経過していることから、りんどうの開花期が前進し、需要期の出荷量の減少が課題となっている。

このため、盆および彼岸需要期の出荷量の安定確保に向け、部会活動を支援した。

■ 活動対象

花巻農協西和賀花卉生産組合

■ 活動経過

(1) 需要期出荷量の安定化

ア スマートりんどう取組支援

当地域では、数年前から市場や関係機関と共に短茎規格「スマートりんどう」の出荷に取り組んでいる。また、夏期高温の影響を受け、開花が前進したりんどうを需要期前に採花し、スマートりんどうの短茎規格に調製したのち冷蔵庫で貯蔵しておき、需要期に出荷する試みも行っている。

これまでは青年部を中心とした限定的な取組が中心であったが、本年度は実需ニーズの高まりを受けて取組実施者を増やすため、初めて生産者向け説明会を行った（6月・8月）。

イ 品質向上のための技術情報の発行

前年度はオオタバコガによる花蕾の食害で出荷ロスが多く発生したことから、今年度は組合で設置しているフェロモントラップの地点数を増やし（3か所→5か所）、より詳細な発生状況の把握に努めた。

また、オオタバコガは花蕾内に食入するため圃場観察で見落としやすいとの声から、例年、生産者向けに不定期にFAXで発信していた「りんどう技術情報」を拡充し、集合指導がない時期でも病害虫や栽培管理に関わる情報が速やかに伝達できるよう発行回数を増した（4回→8回）。

■ 活動成果

(1) 需要期出荷量の安定化

ア スマートりんどう取組支援

説明会では市場担当者を招き、スマートりんどうに対する量販店の生花担当者等、実需者の反応を取組志向者に伝えた。また、JA及び(特非)西和賀農業振興センターからは通常の出荷規格との違いや販売単価の優位性等について、既にスマートりんどう出荷に取り組んでいる生産者からは昨年までの経験を踏まえ収穫調製時のポイントについて説明した。普及センターか



スマートりんどう目揃会

らは、スマートりんどうに適した栽培管理や病虫害防除に関する助言を行った。

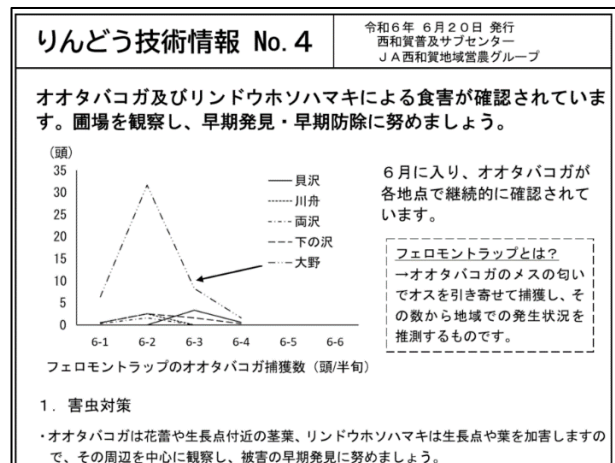
その結果、今年度の取組人数は前年から5名増加し、出荷期間を通じたスマートりんどう出荷量は昨年比1.5倍と大幅に増加した。また冬期に行われた組合の反省会において、今年度初めてスマートりんどうに取り組んだ生産者から「開花が早まっても需要期に出荷することができて単価も良く、やって良かった」との声があった。

イ 品質向上のための病虫害防除指導

適期防除によるオオタバコガの被害軽減のため、定期的なフェロモントラップ調査による発生状況及び防除対策を技術情報としてまとめ、タイムリーに生産者に発信した。また、併せて葉枯病、褐斑病、花腐菌核病等の重要病害についても同様に発信した。

本年は、昨年のオオタバコガ被害多発を踏まえ、防除情報の発行頻度を昨年の倍に増やし、発生に応じた速やかな病虫害防除を支援した結果、生産者から「防除タイミングや薬剤選択の判断に役立った」との声が多く聞かれた。

フェロモントラップ調査と病虫害の発生状況を併せたタイムリーな情報発信については次年度も継続予定である。



りんどう技術情報



近年、実需ニーズがある加工用花や切り花（スマートりんどう規格）など安定的な出荷・流通・加工の拡大によって、今後も切花生産や流通の効率化を図り、生産者の所得向上とともに花き産地として一層盛り上げていきたいと思っています。

また、オオタバコガなどの病虫害が発生し圃場内で増加してしまうと、りんどうの外観への影響だけではなく、草勢も弱ります。オオタバコガはいつ飛んでくるか分かりませんので、フェロモントラップで発生状況を把握して防除の徹底を図り、「実需者へきれいなりんどうをお届けできるよう」指導していきたいと思っています。

所属職名：花巻農業協同組合西和賀地域営農グループ 米穀園芸課長 氏名：柿澤邦弘

■ 協働した機関

花巻農業協同組合西和賀地域営農グループ、（特非）西和賀農業振興センター、（株）仙花、（株）フラワーオークションジャパン、（株）盛岡生花地方卸売市場

■ 中部農業改良普及センター西和賀普及サブセンター

農業農村活性化チーム（チームリーダー：澁谷まどか）

（チーム員：佐藤千穂子、本田純悦、佐藤陽菜）

執筆者：佐藤千穂子



メールサービス 会員募集中！

(情報料無料)

農作物技術情報や農村地域などの情報を幅広く提供する、岩手県公式サイト「いわてアグリベンチャーネット」の情報をお知らせするメールサービス(メーリングリスト：ML)です。

○配信情報

農業技術情報

病害虫の情報

各地域の情報

県内9地域※ごとに配信します
お好きな地域(地域ML)を選んで
登録いただけます

〔※盛岡、八幡平、中部(花北・遠野・西和賀)、
奥州、一関、大船渡、宮古、久慈、二戸〕

この他、いわてアグリベンチャーネットの新着記事情報を配信！

○登録方法

次の事項をメール送信※してください

氏名

メールアドレス

農業者の当否

所属

登録する地域ML

盛岡

八幡平

中部

奥州

一関

大船渡

宮古

久慈

二戸

※あて先：AF0005@pref.iwate.jp
右記QRコードを使用すると
簡単に送信できます

複数地域登録可能です
この場合、農業技術情報等の
全県共通の情報は各地域ML
から配信されます

【メール送信用QRコード】
(メーカーが起動します)



【詳しくはHPをご覧ください】



〔右記HPリンクから申込様式をダウンロードし各普及センターにお渡しいただいても登録できます〕

お問い合わせ先

岩手県庁農業普及技術課農業革新支援担当

電話：019-629-5652

メール：AF0005@pref.iwate.jp